

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①小学生のころの日記は、最後の一文がいつも同じだった。だれとなにをして遊んだ、なんの本を読んだ、たわいもない日常が綴られたあと、唐突に「とてもおもしろかったです」としめくくられる。「とてもおいしくて、とてもおもしろかったです」が、まれな変化形だ。宿題として日記を提出すると、先生が赤ペンでコメントをくれるのが楽しみだった。でも、あるときこう指摘された。「なにをしたかはよく書いていますが、そのとき感じたことも書けるといいですね」。それ以来、この一文がつけ足されることになった。とってつけたような一文は、小さな抵抗のようにも思えるけれど、ただただ素直だったのだ。そもそも日記とは、その日のおもしろかったことを書くものと思っていたような気がする。

あらためて考えると「おもしろい」こそ、そのころの自分が日々感じたいろいろを表すのに一番適した言葉だったのだと思う。「おもしろい」は、いかげんなようで、じつは万能で、深い言葉だ。

研究でも、一番のほめ言葉は「おもしろい」だ。新しい着眼点、新しい手法、意外な結果、新たな説を導く考察など、それまでの枠組みを大きく変えるような研究こそ「おもしろい」。

アートの起源について研究するうえでも「おもしろい」がだいじなキーワードだと考えている。鑑賞者の視点からは「美しい」についての議論に集中しがちだが、表現者の視点からはむしろ「おもしろい」が重要なのではないかと。

根拠は、やはりチンパンジーだ。先にも述べたが、チンパンジーが描くとき、芸として教えるのとは違って、ごほうびのリングは必要ない。筆やペンを動かして描く行為がなんだか「おもしろい」らしいのだ。

A チンパンジーたちの興味は、描く過程にあって、描かれた結果としての絵にはあまり興味を示さない。絵筆を動かすことであらわれる、さまざまな痕跡。画用紙に絵筆をふりおろせば、てんてんが描けるし、筆先をつけたまま水平に動かせば、しゅーっと長い線があらわれる。手を動かしながら、出力（行為）と入力（感覚）の関係を探索的に理解していく。その過程をおもしろがつているように見える。

おとなのチンパンジーには「画風」があつて、絵を見ればだれが描いたかがわかるほどだ。*₁アイならくねくねした曲線を画用紙全体に広げるし、*₂パンなら短い線を並べて色ごとに*₃パッチをつくる。でたために絵筆を動かすだけではなく、自分好みの描き方ができくる。それぞれの美を求

めての画風というより、こう描こうという自分のルールをつくって、それを実行するのが「おもしろい」のだろう。

②人間の場合も、子どものころから美を求めて描くわけではない。はじめてペンを握るとき、ふりまわしたペン先がたまたまコッソンとあたつて痕跡が残るだけで、あ、とうれしそうに歓声を上げたりする。なぐりがきをしている時期は、チンパンジーと同じように、探索する過程をおもしろがつて描くのだ。

やがて三歳ごろに「なにか」を表した絵、つまり*₄表象を描くようになると、モチベーション（動機づけ）も変わってくる。自分の描いた線にさまざまな物の形を発見することがおもしろい。頭のなかにあるイメージを紙の上に生み出すことがおもしろい。そして、それを他者に伝えられることがうれしい。B 個人的な動機づけに社会的な動機づけがくわるので、他者の反応が気になりはじめる。

この時期には、絵を介した言葉のコミュニケーションも頻繁におこる。「これ、アンパンマン」と子どもが説明しながら描いたり、まわりのおとなが「なに描いたの?」と問いかけたりする。

そのとき、なにげなくつかってしまうのが「上手」という言葉ではないか。上手だね。上手いね。子どもの絵に対してだけではないかもしれない。美術館でも、*₅ダリの絵の前に「上手」という声が聞こえてきて、びつくりしたりする。

自分も「上手」という一元的な評価にさらされてきたからだろう。それ以外に絵をほめる言葉を知らないのだ。そして、これこそ絵が苦手という人を生み出してしまう最大の要因なのではないかと思っている。

「上手」といわれるのは、見た物の形を写し取った写実的な絵のことが多い。子どもの絵でも、C 物の形をとらえた絵の方がほめられやすいし、子どもらしいのびのびとした絵であるとお「上手」とされる。

そうすると、③上手に描けないから絵が苦手、という子が出てきてしまう。おとなになると、上手な絵を描くには、特別な才能や絵心なるものが必要で、自分にはそれがないから描けないと思ひ込んでいる人も少なくない。

（中略）

小学校の高学年のころ、写生で木を描くのに悩んだ記憶がある。木の枝一本一本が目ではちゃんと見えているのに、描こうとするとうまくいかない。見れば見るほど、たくさんの情報があふれていて、すべてを描き写すのはとうてい不可能に思えた。結局、左右に適当な枝分かれをつくつてごまかしてしまった。記号的な表現に逃げたのだ。

学校ではいつも、上手に描こう、きれいに描こうという気持ちがどこかにあった。その結果、より複雑な描き方の記号を探し、こぢんまりとした絵になっていたように思う。

そのころ、家で新聞を読んでいる母の姿を、こっそりスケッチしたことがあった。このとき、なぜかいたずらごころのスイッチが入って、とことんおもしろく、変な絵にしちゃえ、と思った。無造作な髪に、ぎよろつとした目、鼻の穴や顔のしわもありのまま、むしろ誇張するぐらいに描いた。本人に見せたら、そんな変な顔じゃないといやがるはず、と期待したのに、すっかり肩すかしを食ってしまった。母はわたしがこっそり描いていることなどお見通しで、むしろ上手に描くなあと感心して、横目で見ていたというのだ。

そういわれてみると、たしかにいつもより生き生きとして、いい絵だった。皮肉にも「上手く」ではなく「おもしろく」描こうと思ったことがよかったのだろう。^{＊6}怪訝に思いながらも、④にか少し粋をこわせたような気がした。

漢字では「面白い」と書くように、目の前が明るくなることが「おもしろい」の語源だとされる。それまでの枠組みがこわされて光がさし込み、見えていなかったものが見えるようになる。「おもしろい」は、見る人のころのなかでおこる作用であり「！」なのだ。

だから、⑤子どもの絵を評価する言葉も「上手」より「おもしろい」がいいと思っている。

「おもしろい」は絶対的な評価ではなく、あくまで個人の感想だ。人によって、そしてテーマや色合い、構図などの視点によって、多様な「おもしろい」がありうる。そのぶん見る方も主体的に向きあう努力が必要だ。いいかげんな言葉のようで「上手」よりずっと誠実で、アートの適した評価ではないか。

（齋藤亜矢「ルビンのツボ 芸術する体と心」より）

注 *1アイ、*2パン 「アイ」と「パン」はチンパンジーの名。

*3パッチ つぎあてのための小切れ。（ここでは、つぎあてをするように色を塗り分けること。）

*4表象 世の中に存在する事物、観念、出来事などに何らかのイメージを与え、別の形にして表されたもの。

*5ダリ サルバドル・ダリはスペインが生んだ二十世紀を代表する多彩な画家。

*6怪訝 わけがわからなくてなつくがいかいかない様子。また、不思議に思うこと。

問一 本文中の空欄 A・B・C に入る適切な語を、それぞれ次の中から選んで記号で答えなさい。

ア やはり イ ただし ウ つまり エ 例えば オ しかも

問二 傍線部①「小学生のころの日記は、最後の一文がいつも同じだった」理由を筆者はどのように考えているか。次の中から最も適切なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 最後に「おもしろい」と書くようになったのは、先生の指摘がきっかけだったが、自分のいろいろな感情を表すのに適していたからである。

イ 最後に「おもしろい」と書くようになったのは、先生の指摘に対して怒ってしまっって、いつも同じ文で終わることと反発したからである。

ウ 最後に「おもしろい」と書くようになったのは、先生に指摘され日記にはおもしろいことだけを書くものだと思って、素直に書いたためである。

エ 最後に「おもしろい」と書くようになったのは、先生の指摘を受けて、「思ったこと」を書いて上手だとほめてもらおうと考えたからである。

問三 傍線部②「人間」の絵を描く行為について、筆者の主張に従って次のようにまとめた。空欄（Ⅰ）は六字、（Ⅱ）は二十字以内、（Ⅲ）は十五字以内で、それぞれ適切な言葉を書きなさい。

- ・チンパンジーも人間の子どもも出力（行為）と入力（感覚）の関係を（Ⅰ）がおもしろい。
- ←
- ・人間の場合は、三歳ごろから、描いた線に物の形を発見したり（Ⅱ）たりするようになる。
- ←
- ・さらにそれを（Ⅲ）と思うようになってくる。

問四 傍線部③「上手に描けないから絵が苦手、という子が出てきてしまう」のはなぜか。三十字以内で書きなさい。

問五 傍線部④「なにか少し粋をこわせたような気がした」とあるが、いったい何に気づいたのか。四十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「子どもの絵を評価する言葉も『上手』より『おもしろい』がいい」について、絵を評価する側がおもしろいと感じるときはどんなときか、五十文字以内で説明しなさい。

問七 この文章を読んだ四人が、その内容について次のように話し合った。本文の内容に照らして適切な発言を、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん 鑑賞者は「美しい」に着目するが、表現者にとっては、「おもしろい」が重要なのではないか。チンパンジーも個々の「おもしろい」に従って絵を描くようだね。

イ Bさん おとなのチンパンジーには自分の好みの描き方があって、自分なりのルールにしたがつて美を表現するのが「おもしろい」みたいだね。

ウ Cさん 人間の場合は、成長につれて絵を介してのコミュニケーションが増えてきて、言葉では伝えられないことを絵で伝えようとするんだね。

エ Dさん 「上手」は子どもに対しても、一流の画家に対してでも使うことのできるほめ言葉だから、絶対的で万能な、すぐれた言葉だと言えるね。

【二】国語の星野先生の宿題で、男子生徒と女子生徒それぞれの意見をまとめてクラス委員の「僕」と近藤さんが発表することになった。先生からの宿題は、いつか宇宙で知的な生命体と遭遇したときに地球人を紹介するとしたらどんなことを伝えるかという内容であった。条件は、文章で書かない、嘘をついてはいけないというものである。これを読んで後の問いに答えなさい。

星野先生の宇宙の話は、ときどき地球上の戦争や大国同士の仲の悪さの話にも結びついた。二十世紀後半にアメリカとソ連が宇宙開発を競い合っていたのも、世界の平和や人類の幸せのためというより、国家の威信がかかっていたから。いまだってそうだ。アメリカはおとし宇宙軍をつくった。でも、それは異星人から地球を守るためじゃなくて、同じ地球の中国やロシアからアメリカを守るための軍隊だった。ロケットと弾道ミサイルの違いだって、ざっくり言うと先端が爆発するかしらないかだけ——「もったいないよなあ。せっかく宇宙を目指すのに、それを敵の国に撃ち込むなんて」と先生は悔しそうに言っていた。

近藤さんも悔しさにふりに言った。

「地球人って、はつきり言って、宇宙に出る資格がないと思う。その前に地球のことをなんとかしてよ、って。なんで貧富の差がなくなるの、なんで肌の色とか差別しちゃうの、なんで難民が減らないの、なんで生きものをどんどん絶滅させちゃうのよ……こんなのが宇宙に出ていたら、ろくなことしないよ、銀河系とか大迷惑だよ、嫌われ者になっちゃうよ、絶対に……」

しゃべっているうちに感情が高ぶって、声が震えはじめた。

気持ちわかる、僕も賛成。でも、このまま放っておくと、近藤さんはもつと興奮して、泣き出してしまいかもしれない。

①だから僕はあわてて、明るい口調で言った。

「でも、地球人って、間抜けだからだいじょうぶなんじゃねーの？」

だって、星野先生は、こんな話もしてくれたのだ。

一九九八年に打ち上げられた火星探査機マーズ・クライメント・オービターは、無事に火星に到着したものの交信が途絶えてしまい、いまは、どこでどうしているかもわからない。

なぜ失敗したかと言うと、開発に関わった二つのチームが、一つは長さの単位をメートルで計算していて、もう一つはヤードで計算していたのだ。それでいろんな数字がごんごんずれていったあげく、通信機能が壊れてしまった。同じステージに立つミュージシャンがお互いに気づかないまま別々の曲を演奏していたようなもの——間抜けすぎる。宇宙開発にかかわる人たちって、みんなめちゃくちゃ勉強ができるはずなのに。

「だから、宇宙に出ていっても、意外とボケ担当で、ほかの星からツッコミ入れられながら『しょうがないよ、地球だもん』って、けっこういい感じでやっていけるかもよ」

近藤さんは、あーあ、という感じで空を仰ぐだけで、返事もしてくれなかった。話もそれっきりで終わり、次の交差点で「じゃあね」「うん、また明日」で別れてしまった。僕のおかげで泣かずにすんだこと、わかってくれるといいんだけどな。

一人になってからも、星野先生の宿題のことを考えながら歩いた。

近藤さんには言わなかったけど、先生から聞いた宇宙の話で、気に入っているのがもう一つある。

地球は火星人に侵略されそうになった。H・G・ウェルズという作家が百二十年ほど前に書いた『宇宙戦争』という小説での話だ。

タコみたいな火星人が地球を襲って、大暴れした。このままだと地球は火星人のものになってしまう……と思いきや、火星人は地球の細菌に免疫がなかったたので、みんな病気になるって死んでしまったのだ。

「だから、こういうこともありうるだろ」と先生は言った。

いま地球人を苦しめている新型ウイルスだって、じつはひそかに、宇宙から侵略にきた目に見えない知的生命体を倒してくれているのかもしれない。僕たちはウイルスに文句ばかり言っているけど、もしかしたら、そのウイルスのおかげで滅亡の危機を免れているのかも……

教室のみんなはマスク越しのくぐもった声でブーイングをした。先生も「甘いかなあ、甘いよなあ、やっぱり」と認めた。「ごめんごめん、みんなの苦勞を無視しちゃって」と謝ってもくれた。ただ、そのあとで、こう付け加えたのだ。

「そういう発想でものごとを見るのも、意外と大事かもしれないぞ」

そのときにはピンと来ていなかった僕も、いま、ちよつとだけ、②先生の言いたいことがわかったような気がした。

(中略)

近藤さんと僕は、それぞれウチに帰ってから必死に考えた。両親に訊いたらヒントぐらいにはなりそうな気がしたけど、逆に、両親の考えることは絶対に違うだろうな、とも思った。

翌日の国語の授業で、さつそく宿題の答えを発表することになった。

最初は女子から。

近藤さんは「赤ちゃんの泣き声です」と言った。「なんにも説明しないでいいから、泣き声だけを録音します。できれば、赤ちゃんが生まれた直後の、産声」

昨日、僕と別れた後、近藤さんはもつとじっくり考えたくて、公園に寄った。ベンチに座って、どうしようかなあ、と考えていたら、ベビーカーを押したお母さんが通りかかって、ちよつと赤ちゃんが泣きだした。その泣き声を聞いていて、これだ、と決めたのだという。

授業の前に女子のみんなに訊いてみたら、全員賛成してくれたらしい。

男子には「えーっ?」「ワケわかんねえっ」と不評だったけど、女子は自信たっぷり、だから男子ってバカだね、という顔をしていた。

③星野先生も満足そうに大きくうなずいていて、「いい答えた」と言ってくれた。○がついたわけだ。

ホッとする近藤さんや女子たちに、先生はさらに続けた。

「きつと伝わるよ。地球人は、こんなふうに命を始めるんだ、って……わかってくれるよ。うん、わかるだろうな、絶対に」

次は男子。

近藤さんを入れ替わりに教壇に立った僕は、言った。

「世界中の人びとの顔を集めます」

人種、民族、国家、とにかく可能な限り幅広い人たちの、もちろん年齢とか社会的立場とか性別も取り混ぜて、笑ったり泣いたり怒ったりすまじたり落ち込んだり……という、さまざまな顔の画像を集めて、データにする。

授業前にクラスの男子に話したときには、はつきり言っただけでウケなかった。荻野くんなんて「弱っちい顔なんてあったらナメられるだろ。ビッと気合入れた顔だけでいいじゃん」——ヤンキーのけんかと一緒になっている。

④でも、星野先生は、「うん、なるほどな」と小さくうなずいて、質問した。

「いろんな表情があるわけだよな」
「はい……」

「大きく二つに分けちゃおう。笑顔と泣き顔だ。で、どっちのほうを多くする？」

荻野くんがヨコから「そんなの笑顔に決まってるじゃん。圧勝。圧勝」と言っただけ、僕は聞こえなかったふりをした。⑤先生もなにも応えなかった。

「接戦です」

僕は言った。教室がどよめいた。不服そうな目になったヤツが何人もいた。⑥でも、先生は表情を変えずに「それで？」と続きをうながした。

「接戦ですけど、……笑顔の方が、ちよつとだけ……勝ってます」

荻野くんは「なんだよ、それ」とすごんだ声になったけど、僕はさらに続けた。

「たまに逆転されたりするけど……」

荻野くんが「ふざけんなよ」と怒りだす寸前、⑦先生は大きな声で「だなんっ！」と言って、手を一つ、大きく叩いてくれた。

「そうだそうだ、逆転される！たまに、じゃなくて、しょつちゅうだ！」

これではもう、荻野くんは黙るしかない。

「でも、途中で逆転されても、必ず……笑顔の方が増える」

僕もそう思う。

「でも、笑顔が増えて安心してたら、また泣き顔が増えてくる」

それもわかる。

「その繰り返しだ」

だよなあ、ほんと、そうだよなあ、と納得する。

「でも、笑顔のほうがちよつとだけ多いってことで、探査機に載せちゃえ。それでいい」

どうやら、先生は僕の答えにも○をつけてくれたらしい。

「どうせ、ずっと未来にならなきや異星の生命体には見てもらえないんだ。だから、いまが泣き顔が多い時期でも、かまわないから、笑顔を増やせばいいんだ」

すると、荻野くんが「えーっ、先生、嘘ついちゃだめだって言っちゃったーっ」と声をあげた。

でも、⑧先生はあわず騒がず、むしろ待ってましたというふうに、眼を細くして言った。

「嘘じゃないよ」

そして、教室をゆっくりと見渡して――。

「それは、希望っていうんだ」

星野先生の宿題は、きつと誰かから誰かへとリレーされていくものだろう。僕がバトンを持って走るのは、ここまで。

⑨受け取ってくれるかな。

ねえ、きみ。

星野先生の宿題に、きみなら、どんなふう to 答える――？

（重松清「星野先生の宿題」より）

注 *1 ソ連 現在のロシア連邦を含む、かつてユーラシア大陸にあった社会主義国。

問一 傍線部①「だから僕はあわてて、明るいう口調で言った」とあるが、この時の僕の心情を説明した次の文の（Ⅰ）・（Ⅱ）に最もよくあてはまることばを、次の選択肢群からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

声が震え始めた近藤さんを前にして、（Ⅰ）と思って、（Ⅱ）ようにしている。

- | | | | |
|---|----------------|---|------------|
| Ⅰ | ア 恥ずかしくて見てられない | Ⅱ | ア からいばりをする |
| イ | もうどうしようもない | イ | 気を抜かない |
| ウ | かわいらしくていいらしい | ウ | 場をなごませる |
| エ | 落ち着かせてあげたい | エ | 弱いところを隠す |

問二 傍線部②「先生の言いたいことがわかったような気がした」とあるが、「僕」がわかったような気がしたのは、どのようなことであつたのか。次の文の（Ⅰ）・（Ⅱ）に合うように説明しなさい。

ものごとを見る時には、（Ⅰ）のではなく、（Ⅱ）と思い直してみること。

問三 傍線部③「星野先生も満足そうに大きくうなずいていて、『いい答えだ』と言ってくれた」とあるが、「いい答えだ」と言ってくれた理由として、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア じっくりと時間をかけて考えて、目の前で泣いた赤ちゃんの泣き声を聞いて決断したから。
- イ 生まれた直後の泣き声を聞かせれば、地球人が命を始めるときの様子を伝えられるから。
- ウ 男子には不評であっても、女子だけにはその尊さが深く共感できる体験となっているから。
- エ 生徒たちに伝えた宿題の二つの条件を満たしていて、一生懸命に考えたことが伝わったから。

問四 傍線部④「でも、星野先生は、『うん、なるほどな』と小さくうなずいて、質問した」・傍線部⑤「先生もなにも応えなかった」・傍線部⑥「でも、先生は表情を変えずに『それで？』と続きをうながした」から読み取れる星野先生の姿として、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア クラスの中にいろいろな意見があることを受け止めながらも、全員の答えに○をつけてあげたくなって、焦らずにじっくりと耳を傾けようとしている。
- イ 生徒が最初に発表したことを踏まえたうえで、さらに問いを深めることで、議論を接戦にもつれ込ませて勝ち負けがつかないようにしている。

- ウ 最初に話したときは男子たちにウケなかったので、困り果てていたが、だんだんと話し合いに熱が入ってくる様子を微笑ましく見つめている。
- エ 生徒の発想を大切にしながら、急いで答えを出さず、生徒たちが大切なことに気づいていけるようゆっくりと話し合いの流れを作っているとしている。

問五 傍線部⑦「先生は大きな声で『だなんっ！』と言って、手を一つ、大きく叩いてくれた」・傍線部⑧「先生はあわてず騒がず、むしろ待ってましたというふうに、目を細くして言った」とあるが、星野先生が、最後に生徒たちに伝えようとしているのはどのような考えか。次の（Ⅰ）・（Ⅱ）にふさわしいことばを、（Ⅰ）は十字以上十五字以内で、（Ⅱ）は三十字以上四十字以内で補って答えなさい。

現在、地球に暮らす人々は、（Ⅰ）というのが現実のところかもしれないけれど、将来いつの日か（Ⅱ）ということ伝えようとした。

問六 本文の末尾には、傍線部⑨「受け取ってくれるかな。ねえ、きみ。星野先生の宿題に、きみなら、どんなふうに答える——？」とあるが、星野先生の宿題に対して、あなただったら、どのようなことを伝えてみたいか。次にあげる二つの条件に従って、八十字以上百字以内の作文を書きなさい。

- 条件1 第一段落には、あなたが伝えようとするもの・ことについて、それがどのようなもの・ことなのか説明しなさい。
- 条件2 第二段落には、あなたが、そのもの・ことを伝えることにした理由を説明しなさい。

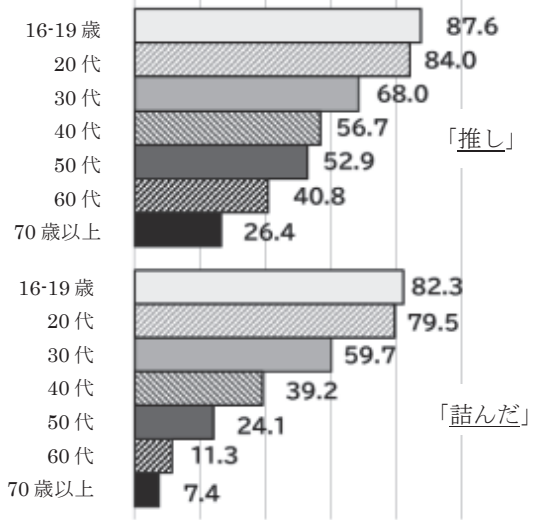
【三】 次の各問いについて答えなさい。

問一 文化庁の令和四年度「国語に関する世論調査」では、「気に入って応援している人や物」を意味する「推し」や「どうしようもなくなった」といった意味の「詰んだ」といった若者言葉について、次の二つの観点で尋ねている。資料1、2を読んで後の問いに答えなさい。

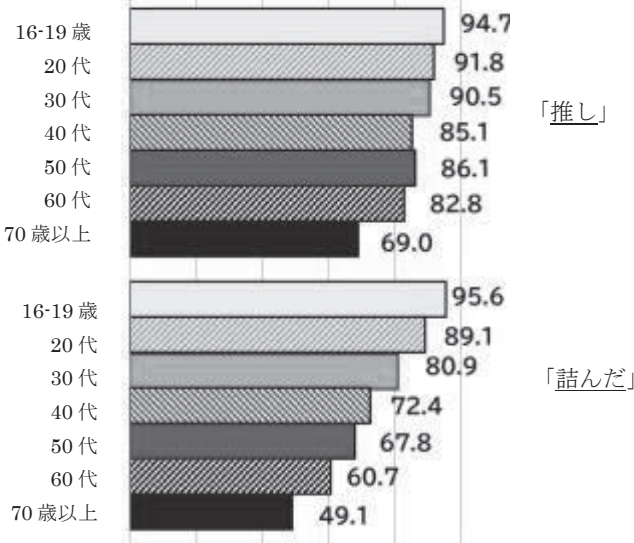
〈質問〉

- 1 自分自身が使うことがあるか
- 2 他の人がその言葉を使っても気にならないか。

資料1 使うことがある



資料2 気にならない



文化庁 令和4年度「国語に関する世論調査」から

① 次の選択肢のうち、調査結果と一致するものを一つ選びなさい。

ア 年齢が下がるほど「使うことがある」と答える割合が低くなる傾向がある。

イ どの年齢層においても、「気にならない」の割合が「使うことがある」の割合より高い傾向にある。

ウ 「使うことがある」と答える割合が高いほど、「気にならない」と答える割合が低くなる傾向がある。

エ 年齢が上がるほど、「気にならない」を選択する人の割合が増加する傾向がある。

② 次の空欄に適切な言葉を入れて資料を説明する文を完成させなさい。

「気にならない」と答えた人が八割を超えたのは、「推し」では（Ⅰ）以下の世代であるのに対して、「詰んだ」は（Ⅱ）以下であることから、より幅広い世代に浸透しているのは「（Ⅲ）」であることがわかる。

問二 次の空欄に漢字一字を入れて下の意味に対応する慣用句を完成させなさい。

- ① （ ）が立つ 円満にいかなくなること
- ② 青菜に（ ） 元氣なくしよげること
- ③ 渡りに（ ） 好都合な条件を与えられること

問三 例にならって、傍線部に係る文節（連文節）に二重線を引きなさい。

- （例） 美しい／花が／咲いた。
- ① 朝から／絶え間なく／さわやかな／風が／吹いている。
- ② この／学校は／図書館が／とても／充実している。
- ③ 急な／坂を／登ると／見えてくるのが／皆さんの／学校です。

問四 次の熟語と同じ構成のものをそれぞれア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 親友 | ア 温暖 | イ 登山 | ウ 新設 | エ 不利 |
| ② 日没 | ア 設立 | イ 市立 | ウ 起立 | エ 独立 |

問五 次の傍線部の読みを平仮名で書きなさい。

- ① あの有名な劇団を率いているのは彼だ。
- ② 彼はその容姿から、ミッキーと呼ばれている。
- ③ 私たちの成功は自らの努力にかかっている。

問六 次の文章は志學館太郎君の作文の下書きである。五カ所ある誤字を訂正し、正しく書きなさい。

地区のごみ拾いボランティア活動があつた。小学生から大人まで、みな真剣な態度で取り組んでいた。市役所の専門家が、資原ごみと一般ごみの分別の方法やリサイクルの重要生について説明して下さった。

受験番号		名前	
------	--	----	--

[illegible][illegible]

三								
問六		問五	問四	問三			問二	問一
(誤)	(誤)	①	①	③	②	①	①	①
↓ (正)	↓ (正)	いて	②	急な／坂を／登ると／見えてくるのが／皆さんの／学校です。	この／学校は／図書館が／とても／充実している。	朝から／絶え間なく／さわやかな／風が／吹いている。	②	②
			②				I	
							③	II
(誤)	(誤)	ら	③					
↓ (正)	↓ (正)							
	(誤)		↓ (正)					

入学試験問題 国語 解答例

受験番号		名前	
------	--	----	--

一									
問一	問三		問四		問五		問六		
A	I	III	写	さ	一	す	そ	合	に
イ	探	他	実	ら	上	る	れ	う	気
B	衆	者	的	さ	手	こ	ぞ	こ	づ
	す	に	な	れ	く	と	れ	と	け
ク	る	中	伝	て	一	で	の	で	た
	過	あ	が	き	で	生	多	、	と
C	程	る	一	た	は	き	様	そ	き
		イ	上	か	な	生	な	れ	。
ア		メ	手	ら	く	と	視	ま	
問二		ー	こ	。	一	し	点	で	
		ジ	と	と	お	作	見	え	ア
		を	を	い	も	品	て	て	
		紙	う	う	し	に	い		
		の	一	元	ろ	に	な	な	
		上	し	的	く	な	主	か	
		に	い		一	る	体	つ	
		描	な		こ	と	的	た	
		い	評		う	と	に	も	
			師				向	の	
			に				き		

二									
問一	問二		問三	問五		問六			
I	I	II	I	I	II				
エ	アイナス面だけを 見て文句を言う	アイナス面だけ もあるのではない か	イ	笑顔	多く	い			
			問四	顔	く	う			
			エ	り	の	希			
ウ				も	人々	望			
				泣	々々	を			
				き	が	も			
					笑	つ			
				顔	顔	て			
				が	で	生			
				多	暮	き			
				い	ら	て			
						い			
						せ			
						る			
						こ			
						と			
						が			
						必			
						ず			
						来			
						切			
						だ			
						と			

三							
問一	①	①	朝から／絶え間なく／さわやかな／風が吹いている。				
		角					
		②					
I		壇					
		③					
60代		船					
II							
30代							
	III						
問二	①	①	朝から／絶え間なく／さわやかな／風が吹いている。	② この／学校は／図書館が／とても／充実している	③ 急な／坂を／登ると／見えてくるのが／増さんの／学校です。	問三	
問四	①	ウ				問五	
	②						
	イ						
		ひき					
		④					
		ようし					
		⑤					
		みずか					
問六	(隠)	捨	原 ↓ (正)	源	(隠) 生 ↑ (正)	性	
	(隠)	拾	熊 ↓ (正)	態	(隠) 問 ↑ (正)	門	